

令和6年度 学校評価報告書（目標設定 実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月21日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①新学習指導要領を踏まえた効果的な学習指導を進めることにより、ものづくりの現場や新たな社会(Society 5.0)で求められる、職業人としての専門的かつ実践的な技術・技能と、それを支える基礎的学力の着実な定着を目指す。 ②特別活動への取組から、他者との協働を進める上で必要となる資質と能力を育成する。	・新教育課程を定着させると共に社会変化に対応できる 不断の授業改善を行う。① ・ICT利活用や工業技術向上の為の様々な企画に取り組み、学校の専門性を深化させる。① ・行事や生徒会活動をより充実させることで、各種の活動における他者との協働の機会を創出し、生徒の成長を促す環境を整える。②	・授業見学や研修会を定期的に行い、教科や世代を超えた授業改善に関するアイデアを共有する。① ・ICT利活用事業、DXハイスクール等の企画に取り組みと同時に、産業フェスタや STEAM EXPO等の行事を通じて学習成果の実践につなげる。① ・ICT学習ツールの活用事例を共有する為に校内研修の充実を図る。① ・行事や生徒会活動に対する生徒の意見や要望を調査し、生徒会本部役員会を中心に活動の充実に向けた検討を進める。②	・授業改善に関する取組や、各事業の成果を校内で共有することができたか。① ・工業関連の各行事において、生徒が学習成果を活かした活動を実践できたか。① ・ICTを利活用した授業実践の割合を向上できたか。学習効果を集約し授業へフィードバックできたか。① ・行事や生徒会活動のための検討と実践ができたか。② ・各種の行事や生徒会活動に対する生徒の満足度は高められたか。②	・主に ICT 利活用に関して、企業からの講師による教員研修や、他校に公開された研究授業等を通じ、授業改善に全職員で取組み、成果を共有する事ができた。① ・藤沢産業フェスタや STEAM EXEO、校内に小中学生を招いてのものづくり体験教室等に本校生徒が取組む中で、授業で身につけた技術を活用し、自信を深める事ができた。① ・DX ハイスクール事業で整備された機材を活用し、ロボットやイルミネーション制御等の地域貢献につながる学習を拡げる事ができた。また、これらの活動を生徒会や有志の生徒が実践する事で、各種の学習発表につなげ、これを充実される事ができた。①②	・本校のミッションとして、ICT 利活用事業やDXハイスクールに関連したカリキュラムの充実を、さらに進め、本校の特色としてHP等で発信する事で、入選倍率の向上に寄与できる様に取組む必要がある。① ・校内外で行われる各種イベントの中で、専門高校の技術やものづくりの成果を発信していく事を継続すると同時に、参加するイベントの精選や内容のブラッシュアップを行い、より負担なく効果的に本校の魅力が、中学生に伝わる様な方策を各グループが連携しながら模索していく必要がある。①②	・ICT の利活用について、課題であった通信環境の改善のほか、一人一台端末など機器の導入も進みハード面で充実してきている様子が分かった。授業における活用にも前向きに取り組んでいる様子だが、今後は様々な教育コンテンツを有効に活用し、ソフト面からも更なる充実を図り、より効果的な指導の実現に努めること。① ・日頃授業で学んでいるものづくりに係る学習の成果を、イベントなどを通して地域貢献に活かすことが効果的に実践されている。② ・文化祭などの学校行事において生徒が活き活きと取り組んでいる様子が印象的だった。挨拶なども良くできており、好ましい態度が育成できている。②	・教科指導におけるICT利活用については、県の ICT 利活用推進指定校事業、及び DXハイスクール事業に係る研究ともリンクさせ、職員研修や研究授業などを通して組織的に取組を進めることができた。また教材のデジタル化を進めるなかで、組織的な授業改善や教材の共有化も進んでいる。① ・授業で取り組んでいるものづくりに係る学習の成果を活かして地域貢献活動を実践することで、本校での学びに対する意識を向上させることができた。② ・コロナ禍を経て縮小していた行事も再開し軌道に乗ってきている。更なる活性化が望まれる。②	・県の ICT 利活用推進事業について本校は第2期も指定を受けることとなり、継続申請をしているDXハイスクール事業と共に、今後も効果的な指導を推進するために研究を深めていく。また「Society5.0」に対応できるエッセンシャルワーカーの育成に向けた教育課程も検討したい。① ・地域と連携した活動は大きな成果がある一方で、対応する件数が多くなり様々な面で負担が増加している。一部に負担が集中しないよう分担の工夫や内容の精選をする必要がある。② ・学校行事は他者との協働による体験から得るものが多く教育的効果が高い。引き続き学校行事の活性化を推進する。②
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①豊かな人間性と社会性、及びコミュニケーション能力の育成に向けた指導を推進する。 ②全ての生徒の学校生活がより良いものとなるよう、教育相談及び支援教育体制を充実させ、一人ひとりに対し丁寧な対応を行う。	・部活動への取組を通し、人間性や社会性、コミュニケーション能力の伸長を図る。① ・規範意識、基本的生活習慣、社会的マナーの定着に向けた指導と支援を推進する。① ・教育相談・支援教育に学校全体で共通認識を持ち、SCやSSWのほか外部機関とも連携し組織的に対応する。②	・各部の活動内容を充実させるとともに、生徒に自らの成長を実感させる指導に努める。① ・服装頭髮、遅刻指導、交通安全指導を行うとともに、問題行動に対する予防的指導に取り組む。① ・状況を的確に把握し、外部との連携を図りながら組織的に教育相談・支援教育を実践する。②	・生徒アンケートにおいて部活動への肯定的な回答が増加したか。① ・遅刻や問題行動の発生を防止する効果的な指導はできたか。件数は抑制できたか。① ・日々の相談のほかサポートドック、いじめ防止アンケート等も活用して状況を確認し、様々な生徒に効果的な支援を行うことができたか。②	・部活動加入率が伸び悩んではいるが、着実に活動し成果をだすことができた部も多い。① ・服装指導については改善が見られた。授業マナー違反・注意無視による連絡票は増えたが、これは先生方が連絡票を利用して積極的に指導を行ったことによる。なお特別指導件数は昨年度とほぼ同じ件数であった。① ・サポートドック、夏休み前後の全員面談を行い、一人一人に対し支援体制の充実を図った。また、教育相談コア会議を毎週開いて生徒情報を共有し、組織的に支援を進めた。②	・部活動を活性化させるため、活動に対する生徒の要望を調査し、満足度を向上させる方策を検討する必要がある。① ・交通安全教室、携帯電話教室などのほか、問題行動を起こさせないようするための予防的指導の充実を検討する。① ・サポートドックや全員面談のほか、日々の生活における生徒一人ひとりの状況をきめ細かく把握し、適切に支援できる体制の更なる充実を目指す。②	・高校時代に部活動を通して学ぶことは多い。加入率が低い状態が続いているようだが、地道にしっかりと活動し実績を残している部もある。活性化を図る取組を進めること① ・問題行動が多い状況が改善しないが、多くの生徒は真面目に学校生活を送っていると思われる。引き続き指導に取り組むこと。① ・教育相談件数が多いなか、様々な問題を抱える生徒に対し、職員間で情報を共有するとともに、外部との連携も図りながら、きめ細かな対応を行うよう努めている。②	・技術部では建築研究部がものづくりコンテスト木材加工部門で県大会優勝、文化部では軽音楽部が県総合文化祭で決勝大会進出、運動部はバドミントン部が県大会ベスト32などの成果を残すことができた。また加入率は低いが他校との合同チームも含め地道に活動を行うことができた。① ・問題行動の予防的指導を視野に入れ、教育相談的視点からの検討も行い一定の成果を得ることができた。①② ・教育相談については、コア会議を中心に組織的かつきめ細かな対応を実践できた。②	・部活動の加入率がなかなか向上せず、各部とも部員不足が常態化している状況ではあるが、他校との合同チームも視野に入れつつ、生徒のニーズに応えるとともに活動に対する満足度を向上させるために体制を整える必要がある。① ・問題行動発生の背景には、生徒本人の発達や家庭環境に課題を抱える状況が要因としてある場合も多い。指導と支援の一体化を推進し、より効果的な支援・指導ができる体制の構築が求められる。①②

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月21日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①地域や社会の発展を担う職業人に求められる能力や態度を育成するとともに、自らの可能性への気づきを促すキャリア教育を効果的に実施する。 ②生徒が望む進路の実現を支援するため、それぞれに対しきめ細かな進路指導を進める。	・生徒のキャリア発達を促す指導を、進路グループ、教科、学年などで連携し効果的に推進する。① ・進路選択時に適切な選択ができるように、ガイダンスを充実させるとともに、保護者との連携をとりながら指導を行う。②	・インターンシップやデュアルシステムなどの就業体験活動や、卒業生に学ぶ会、出前授業などの取組を通して、望ましい勤労観・職業観を育成する。① ・進路説明会等やガイダンス等で進路に関する情報を確実に伝え、保護者と連携しながら適切にアドバイスをするなど、生徒の主体的な進路決定を支援する。②	・様々な活動や指導を通して、望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、進路実現に向けた生徒の意識を高めることができたか。① ・高い進路決定率を維持することができたか。進路指導への生徒・保護者の満足度は高いか。本校の指導や対応について企業の評価は得られているか。②	・就業体験活動、出前授業、現場見学等が生徒自らの進路選択に向けた意識の醸成に有意義なものとなっている。そしてこのことが生徒の勤労観、職業観を育むことにつながっている。① ・進路説明会やガイダンス、また個別の指導・助言を通して生徒自らの将来を真剣に考え、進路決定率も98.2%と高水準を保つことができた。保護者や企業からの評価についても良好だった②	・左記の活動や取組は生徒が将来を自ら考えていくうえで有益であると考えられることから、今後も各種の就業体験活動や見学の機会を提供していきたい。① ・進路説明会やガイダンスの内容を生徒にとってより意義深いものになるよう内容を充実させていきたい。また次年度も保護者と学校が連携した進路支援を行っていきたい。②	・総合技術科高校として企業や業界団体等と連携し、就業体験活動、出前授業、現場見学会など、地域産業を支える人材の育成に向けた実践的な指導に良く取り組んでいる。① ・高い進路決定率を維持できている。しかし高卒就職者の定着率の低さ問題になっている。今は求人が多い状況であるが、安易な選択をさせないようにしっかりと指導を行うこと。また進学に向けた指導も充実させること。②	・課題研究の授業で行っている「デュアルシステム」や、「インターンシップ」などによる就業体験活動、また企業や業界団体との連携による出前授業なども数多く実施することができ、国家資格の取得に繋がる実践的な指導も行うことができた。① ・希望する生徒の98%について卒業後の進路を実現でき、保護者からの評価も良好だった。②	・就業体験活動や出前授業の実施については、各系により参加者数や実施数に偏りがある。また業種による偏りもあるので、より多くの生徒のニーズに応えられるよう体制を整える必要がある。① ・生徒が主体的に進路選択に臨むよう、企業や大学など外部との連携を更に進め、自らの将来を考える意識を高める効果的な働きかけを検討する。②
4	地域等との協働	①連携・協働により地域に貢献し愛される学校づくりを進める。また各種の活動を生徒の課題解決能力の伸長や人間的成長に繋げる機会とする。 ②地域とともにある学校としての認知度を向上させるため、積極的に情報発信を行う。	・本校の学習で習得した知識や技術を活かし、生徒が地域に貢献できる活動を推進する。① ・大規模災害の発生に備え、地域との連携強化を検討する。① ・本校の魅力特色を地域や中学生・保護者に定着させるため、引き続き積極的に情報の発信を行う。②	・各種の地域イベントや交流事業に積極的に参加し、生徒が活躍できる機会を創出する。① ・行政や自治会と連携し、具体的な防災活動について取組内容を点検し、改善に向けた検討を行う。① ・学校説明会のほか公式HPやSNSを活用し、本校に関する情報を効果的に発信する。②	・イベントを通して地域に貢献することができたか。参加した生徒の達成感や来場者の満足度は高いか。① ・地域防災に関連した各種の対応を点検できたか。必要な改善をすることができたか。① ・来場者アンケートで肯定的な回答が増加したか。HPやSNSの閲覧数は増加したか。②	・各種のイベントに積極的に取組み好評を得ることができ、生徒の達成感も高かった。① ・学年末に、1年生及び地域防災担当者を対象とした防災教育(地震体験車、災害用トイレの設置訓練等)を藤沢市と協力し実施した。① ・校内実施の学校説明会では、全3回で706名(前年比0.97倍)の参加があり、来場者アンケートでは肯定的な回答は89.5%だった。② ・HPやSNSを通じて引き続き情報発信に努めた。なおX更新は50ポストだった。(前年比1.0倍)②	・参加生徒を増加させたいが、イベントにも限りがあるので、多くの生徒にかかわりを持たせられるよう工夫する。① ・本年度は地域と連携した防災訓練を実施できたので、次年度も継続する。① ・学校説明会来場者数が横ばいなので、来場者アンケート等を参考に実施時期や内容を改善する。② ・HPやSNSの活用は効果が高いと考えられるので、更にスピード感を持って更新した。なお本校の情報を発信できるよう体制を整える。②	・地域の様々なイベントや郷土づくりに係る活動に生徒達が積極的に参加し「地域協創」に前向きに取り組んでいる様子が分かった。今後も引き続き地域と連携した活動を効果的に推進すること。① ・災害時に地域の拠点として役割を果たす備えができています。① ・本校の魅力を発信する学校説明会に力を入れているが、更なる工夫をすること。受検生や保護者としては、学校選びの最終決定を行う際の学校説明会での印象は非常に大きい。またSNSなどの活用も効果的である。積極的に情報発信すること。②	・「ものづくり」による連携活動を引き続き推進することで、地域に貢献するとともに、生徒の達成感や自己肯定感の向上に資する取り組みができた。① ・企業との連携から、校内に防災トイレを設置した。設置工事の実施にあたり生徒も作業を担当するなど、教育的効果の高い取組とすることができた。① ・学校説明会の来場者数は横ばいだったがアンケートでは肯定的な回答が約9割だった。またSNSによる情報発信にも積極的に取り組んだ。②	・ものづくりを通じた地域貢献活動は、参加した生徒の達成感も高く、より多くの参加を実現したいが、様々な負担から参加できる数にも限りがあるため、運用に工夫が必要である。① ・新設した防災トイレも活用し、生徒への防災教育とも関連付けながら、地域の防災拠点として有事への備えを進める。① ・私学の学校説明会は公立校と比べて印象的で効果が高いとの指摘をいただいた。私学を始め他校の取組も参考としながらより効果的な広報活動を検討する。②
5	学校管理 学校運営	①安全安心に活動できる教育環境を整備するため、施設設備の充実、事故や災害への対策を進める。 ②学校運営の組織的な改善や事故・不祥事の発生防止に取り組み、社会の信頼と期待に応える学校づくりに努める。	・教育活動を円滑に行うため、校内環境の保全と改善を進める。① ・ICT利活用授業研究を推進するため、ICTツールが日常的に使えるよう環境整備を進める。① ・職員一人ひとりが教育公務員としての自覚を持ち、引き続き不祥事防止に努める。②	・校内の施設・設備の充実と安全の確保、また校内の美化に係る活動に取り組む。① ・Wi-Fi通信環境が整っていない箇所を調査し、改善に向け増設を行う。① ・不祥事防止に対する職員の高い意識を維持するため、研修や情報提供を継続的に行う。②	・施設設備の点検・整備、また破損箇所や危険箇所の改善ができたか。校内美化や廃棄物の適切な処理を推進できたか。① ・Wi-Fi通信環境を改善することができたか。① ・効果的な取組を進め、不祥事ゼロを継続することができたか。②	・ロッカー及び下駄箱等の破損状況を確認し、修理・取替をすることができた。校内美化に努め、廃棄物の適切な処理について意識を高める指導を推進した① ・県の取組みで校内のWi-Fiが各HR教室に増設され、通信環境の改善が実現した。① ・不祥事防止研修を毎月実施するなどの取組から、不祥事の発生を防止することができた。②	・危険箇所、破損箇所等を点検し、安全安心に活動できる環境に整える。また来年度のオフィス改善事業に合わせ職員室等の整備も進める。① ・実習室等のネットワーク環境は未だ整っていないため、引き続き改善に向けた検討が必要である。① ・今年度「ヒヤリハット」事案があったことから、防止体制の強化検討が必要。②	・日々の点検などしっかりと実施していることが分かった。安全・安心な教育環境を維持することは、生徒や保護者にとって非常に重要な事である。① ・ICT利活用環境はハード面の整備が進んでいるとの事で、今後の効果的な活用に期待する。① ・不祥事防止に向けた取組については、力を緩めることなく、引き続きしっかりと行うようにすること。②	・校内の危険箇所の点検のほか、車いすを使用する生徒への安全対策、またオフィス改善事業に係る検討を進めた。① ・懸案だったHR教室の通信環境がAP増設により改善され、一人一台端末を有効に活用できる環境の整備が進んだ。① ・成績処理に関する点検体制の不備が確認され、改善に向けた対策を行った。②	・車いす使用生徒の緊急時の避難経路の整備が完了していないため実施を急ぐ。またオフィス改善事業は今夏の実施に向け準備を着実に進める。① ・実習室等の通信環境の改善、一人一台端末の購入率向上に向けた対応が引き続き必要。① ・成績処理の点検体制については、見直した手順を徹底し万全を期す。②